

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月20日現在

機関番号： 15201

研究種目： 基盤研究（C）

研究期間： 2009～2011

課題番号： 21530879

研究課題名（和文） 多文化共生社会を指向した新しい国際歴史教科書対話と歴史教育カリキュラムの研究

研究課題名（英文） History Curriculum for Building Tolerance: Inquiry into International Debates on History Textbook Controversies

## 研究代表者

百合田 真樹人（YURITA MAKITO）

島根大学・教育学部・准教授

研究者番号： 40467717

研究成果の概要（和文）：従来の国家主義的、または形而上的な正義を追及する国際歴史教科書対話が、歴史観の絶対性の前提を無批判に内包する問題を指摘した。さらに、学校教育から獲得する公的な歴史は、児童・生徒がもつ歴史認識の構築にメディアや市井から獲得する歴史認識ほどに大きくないことを実証した。そのうえで、歴史教育の目的は、外的に構築された歴史認識の伝承ではなく、歴史的手法を活用する方法論の修得に設定すべきであることを論じた。

研究成果の概要（英文）：Behind international debates on history textbook controversies, it is assumed that there is transcendental facts in history. This study identifies theoretical dilemma within such presupposition on the debates around historical controversies. Furthermore, this study identifies students' attained their historical consciousness not so much from school curriculum but rather from media and their life environment. This study then argues for the need for the building of a dialogue that positions history as a method to inquire the past rather than the past itself.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：比較教育

## 1. 研究開始当初の背景

国や民族を超える歴史教育のあり方を考える試みは、決してあたらしいものではない。ヨーロッパでは戦後の早い時点で、国家を超えた共通の歴史教科書の作成を試み、歴史教

科書の記述の差異を解消する試みを多く見ることができる。しかし、急速に複雑化する現代社会のダイナミクスにたいして、歴史教科書の記述をめぐる従来の方法論は十分に応答できない。さらに、世界の多元化についての認識は、既存の方法論がもつ以下の3つ

の限界を露呈している。

(1) 従来の歴史教育が私たちの帰属意識を形成するうえで重要な役割を持つことは、Barton(2001)などの研究が示している。国家や民族を超えた「共通」の歴史教科書を追及することは、歴史教育がこれまでになってきた国民意識や社会への既存意識を形成するという役割と矛盾するばかりか、その役割自体を否定する。

(2) 「絶対普遍主義への傾倒」をアドルノが批判したように、相互理解による共通歴史教科書の作成は、理解不能な差異や、自己を否定する他者の存在という、理解の限界を想定した具体的方法論をもっていない。

(3) すべての国家や民族の領域を超越した絶対普遍的な理解の基準にもとづく歴史認識を私たちは持ち得ないという現実。

急速なグローバル化のもとで多元化する現代社会において、歴史認識の差異の克服を、共通した歴史認識の構築を対話によって達成しようとする取り組みは非現実的である。本研究は、新しい国際歴史教科書対話のあり方を探る必要性に応答することを目的に始められた。

## 2. 研究の目的

本研究は、急速に複雑化する現代社会のダイナミクスに応答する歴史教育のあり方を検討し、新たな歴史教育のカリキュラム（及び指導指針）の構築にむけた指針を示すことに取り組んだ。従来の歴史研究と歴史教育に限定されたアプローチに加え、歴史をめぐる「記憶とアイデンティティ」を、歴史/政治哲学的視点から考察し、グローバル化する現代社会の課題に応答する歴史教育の具体的方法論とその指針を提案が、本研究が目的としたところである。

## 3. 研究の方法

(1) 日韓の歴史教科書記述をめぐる国際対話・折衝を対象に、歴史認識の差異が問題化した経緯とその周辺の言説についてディスコース分析を実施。

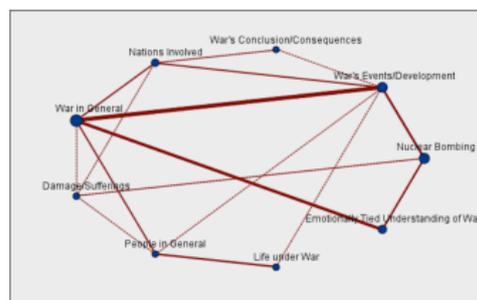
(2) 従来の国際歴史教科書対話の成果と課題を明示し、歴史研究、歴史教育、メディア、行政の各分野の応答の実際を明らかにする。

(3) 児童・生徒を対象に、歴史知識につい

ての定量調査をおこなうと共に、歴史認識の実際について定性的に調査した。さらに、歴史認識の構築の過程についても定性調査を日韓で実施し、歴史認識構築過程における歴史教育の役割を再検討した。

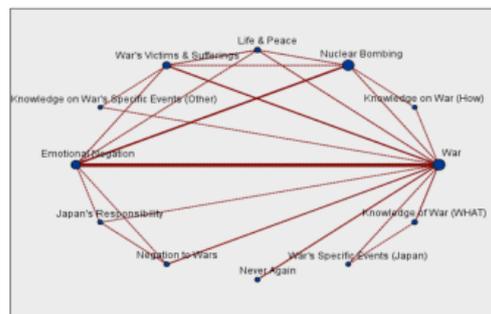
## 4. 研究成果

第二次世界大戦についての学びを日韓の中学校卒業時点（義務教育において第二次世界大戦の学習を終えた時点）の生徒を対象に調査をおこない、自由記述回答を収集した。収集した自由記述回答はテキストマイニングの手法を用いて分析した。具体的には、SPSS Text Analytics for Surveys を活用し、頻度別にキーワードを抽出し、抽出したキーワードをもとにカテゴリーを作成した。その



うえで、カテゴリー間の関係性を図式化することで、自由記述回答に記された歴史認識の概観を示した。

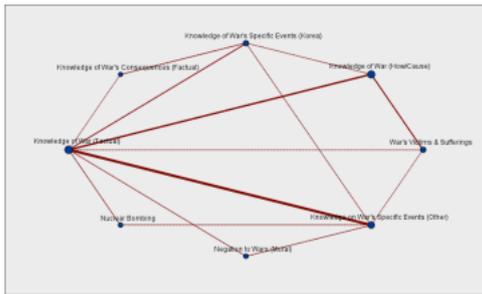
上図は、日本の生徒が第二次世界大戦について重要と考える事項や理解について記述した内容を、テキストマイニングの手法で分析したものである。この分析結果は、日本の生徒が戦争のおこりと出来事を抽象的にとらえる一方で、原子力爆弾についての学習をとおして、戦争を感情と結びつけて認識する学習をしていることを示している。



特に、第二次世界大戦について何を学ぶべきかについて聞いた設問の結果（上図）をみると、「戦争」と「否定的感情」を結びつけ

る線が特に強調されており、戦時中の出来事についても、戦争と否定的感情を結びつける事例として触れられている。

同様の調査を韓国でおこなった結果（下図）をみると、韓国の生徒は「出来事についての知識」「原因についての知識」「戦争一般についての知識」の3点を結ぶ線が顕著であり、第二次世界大戦について、そのおこりと出来事の知識伝達を歴史の学習としてとらえている。また、戦争を否定的にとらえる感情についての言及はあるものの、顕著ではなく、日本の生徒が戦争への否定的感情を強く示しているのとは対照的であった。



従来の歴史認識の差異をめぐる国際歴史教科書対話は、歴史事実の「正しい」表象を追及していたが、本研究の調査は、両国間の歴史教育の差異は歴史事実や歴史認識の差異では必ずしもないことを示している。歴史教育の実践における両国間の差異の本質は、歴史を教育することの目的にあり、歴史における事実認識や叙述における差異は表象としての差異に過ぎないことがうかがえる。

日本の歴史教育が、その実際において、戦争の悲惨さをおして、戦争に否定的感情を育むことを目的としているのに対して、韓国の生徒は、戦争の事実をクロニクルとして学習することを歴史教育の目的として設定している。

このことから、国際歴史教科書対話が二国間の歴史認識をめぐる差異を表象としてとらえる一方で、それぞれの歴史教育が設定する目的の差異を看過していることが明らかになった。その上で、本研究は歴史認識の差異は、歴史教育が設定する目的の差異によって生まれる現象であると位置づけた。この観点から、本研究は、歴史認識の差異をめぐるさまざまな議論において、表象としての差異ではなく目的の差異を検討する必要性を論じたほか、多元化する世界において共通する歴史教育の目的として、歴史的方法論の獲得を設定する必要性を論じた。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① Yurita, M., Suh, Y., Metzger, S., “What do we want students to remember about the ‘Forgotten War’?: A comparative study of the Korean War as depicted in Korean, Japanese and U.S. secondary school history textbooks.” *The International Journal of Social Education*, 査読有, 23 巻 1 号, 2010, 51-75.
- ② Yurita, M., “Liberalism and its rhetorical limitations: Liberalism and its acultural and ahistorical conditions.” 島根大学教育学部紀要, 学内査読有, 44 巻, 75-82, 2010.

〔学会発表〕（計5件）

- ① Yurita, M., Suh, Y., (December 2, 2011). “Between History and Collective Memory: History Textbook Controversies, and How Students in Japan and Korea Make Sense of the World War II.” Presentation at CUFA-NCSS 2011 in Washington, DC. (審査有)
- ② Yurita, M., (May 2, 2011). “Reframing Controversy: Comparative Studies of Japanese and Korean History Textbook Accounts on the Second World War.” Presentation at the Comparative and International Education Society in Montreal, QC, Canada. (審査有)
- ③ Suh, Y., Yurita, M., Lin, L., Metzger, S., (November 10, 2010). “Collective Memories of World War II in History Textbooks from China, Japan and South Korea.” College and University Faculty Assembly of the National Council for the Social Studies in Denver, Colorado. (審査有)
- ④ Yurita, M., (March 2, 2010). “Peace Education at Risk: Measuring the Effectiveness of Peace Education in Japan.” Presentation at the Comparative and International Education Society in Chicago, IL. (審査有)

〔図書〕（計1件）

- ① Yurita, M., Suh, Y., “International debates on history textbooks: A comparative study of Japanese and South Korean history textbook accounts

of the Second World War.” Nakou, I. & Barca, I., eds., Contemporary Public Debates on History Education (Charlotte, NC: Information Age Publishing, 2010), 153-168.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

百合田 真樹人 (YURITA MAKITO)

島根大学・教育学部・准教授

研究者番号：40467717